

科目名	事業承継論特講	担当者	ソネ 曾根 ヒデカズ 秀一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、「事業承継」について経営学の視点から理解し、その知識を得るとともに、実践的な課題解決に関して修得することを目的とする。</p> <p>日本の地域、経済の活性化を担っていく存在として、近年、中小企業とりわけ、ファミリービジネス（同族企業、家族企業）に注目が集まっている。また、欧米の大学では、ファミリービジネス論の授業が盛んに行われ、わが国でもファミリービジネスを取り扱った授業が増えつつある。その中でも本講義では、ファミリービジネスの中でも重要項目となる事業承継に焦点をあて、理解を深めていく。「理論・概念」と「実例」の対応関係に留意し資料の読み込みがのぞまれる。</p> <p>以上の目的を達成することにより、理解力に加え、論理的かつ批判的思考力を中心に、問題発見、解決能力、計画・戦略立案、導入、遂行できる能力の獲得を目指す。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック：A-1:4, A-3:4, A-4:4, A-6:4, A-7:4, A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 ファミリービジネスならびに事業承継の内容と位置づけについて、専門性を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリービジネスの基礎となる概要及び基礎理論を説明できる。</li> <li>・それをもとに、事業承継の仕組みを理解し、ケース事例を分析・評価できる。</li> <li>・経営学の理論や情報をもとに、事業承継に関する諸課題の解決策を提示できる。</li> </ul>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した指導を実施する。</li> </ul> <p>【学修方略（LS）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教材の熟読ならびに体系的理解する。</li> <li>2. 事業承継に至るまでの後継者育成について理解する。</li> <li>3. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の比較検討を行う。</li> <li>4. ファミリー企業における事業承継に関する問題点を理解する。</li> </ol> <p>【学修時間】</p> <p>1つのレポート作成にあたり基本教材および参考文献の読み込みに25時間以上Manaba-folioへの提出・再提出のやりとりに20時間以上を目安とする。</p>		
スケジュール	<p>複数回にわたるレポートを提出することで修士論文作成の際の必要となる基礎的な事項を修得することができる。具体的には、第1回目のレポートの草稿は、遅くとも最終提出期限の1か月前を目安にすること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容の理解、修得、レポートの構成、文章表現を基準とする。
	平常評価	20%	草稿段階から最終稿に至るまでのプロセスや取組みを評価基準とする。
履修者への要望	<p>経営関連科目の基礎の理解が前提なため、経営関連科目との同時履修が望ましい。</p> <p>また、他のファミリービジネス関連の履修も望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠男・階戸照雄・曾根秀一ほか編 教材名： 『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』（中央経済社、2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
	テキストはファミリービジネスに関して、網羅的に論じたものである。主な研究成果を体系的に概説しており、その優位性・特徴、成長と発展、経営戦略、事業承継、ガバナンス、社会的責任などを相互関連に着目して理解するのに適している。事業承継事態の理解に加えて、多面的理解に有効である。 ＊前期はファミリービジネス論に基づいて、事業承継ならびにファミリー・ガバナンスの理論的理解を深めることに重点を置く
参考図書	『中小企業白書』2006年版以来、事業承継を重点的に取り上げており、我が国の現状を理解する上で有効である。
履修上のポイント	1 ファミリービジネスにおける事業承継の位置づけと特徴を理解する 2 事業承継をプロセスとして理解する 3 それぞれの利害関係者の視点から事業承継を理解する 4 承継計画の重要性と骨子を理解する
レポート課題 1	◎わが国の後継者育成の方法に関する変遷について説明せよ。 <b>留意点</b> ：近世から現代にかけて論じること。 用いる理論名と理論の概要（25点）、わが国の現状（25点）、分析（40点）、提言（10点）
レポート課題 2	◎事業承継とファミリー企業存続の関連性について述べよ。 <b>留意点</b> ：1つ以上の理論も含め、論じること。 用いる理論名と理論の概要、わが国の現状、分析、提言

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 落合康裕 教材名： 『事業承継のジレンマ：後継者の制約と自律のマネジメント』（白桃書房、2016年） ISBN: 978-456126682-2 3,200円+税
	本書はファミリービジネスの中でも長期存続している企業群4社を対象に、事業承継をテーマに考察し論じたものである。そして、そこから伝統と革新のダイナミズムの解明に取り組んだ意欲作である。ファミリー型長寿企業にみられる商慣習やしきたりといった厳しい伝統の継承が求められることが多いファミリー型長寿企業の経営者は、どのようにして独創的な行動をとり次世代の経営者として育てていくのか、というリサーチクエスションのもとに議論が進められる。
参考図書	デニス・ケニヨン・ルヴィネ・ジョン・ウォード編 『ファミリービジネス永続の戦略』（ダイヤモンド社、2007年） ISBN:978-4-478-33125-5 2,000円+税 ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠男編 『日本のファミリービジネス：その永続性を探る』（中央経済社、2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円+税
履修上のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・承継プロセス（制約）と、次世代経営者としての地位が示す能動的行動（能力蓄積）である自律との二律背反的状况を理解する。</li> <li>・事業承継における後継者の正統性の問題を理解する。</li> <li>・承継プロセスにおける後継者の制約性と自律性の問題に着目し、その必要性について理解する。</li> <li>・制約と自律のジレンマについて理解する。</li> </ul>
レポート課題 1	◎将来の後継者としての地位を周囲に認めさせる段階（正統性の獲得）について、具体的にどのようなことが必要であるか述べよ。 <b>留意点</b> ：1つ以上の事例を含めること。
レポート課題 2	◎教材（テキスト）に残された課題は何か述べよ。 <b>留意点</b> ：著者があげた課題以外について、複数あげること。 論文作成に必要なクリティカルリーディングを行うことで本課題に答えること。